



お母さんがんばれ！

お母さんの健康は一家でまもろう

結核予防週間の催しは、●映画で！！

- 諸団体こぞって推薦
- 文部省選定
- 青少年映画審議会推選
- 日本PTA全国協議会推薦
- 中央児童福祉審議会推薦
- 東京都教育委員会選定
- 結核予防会推薦
- 全国地域婦人団体連絡協議会推薦
- 主婦連合会推薦
- 日本青年団協議会推薦
- 東京映画愛好会連合推薦
- よい映画をすすめる会推薦
- 都下大学学生映画連盟推薦
- 都民映画コンクール教育映画銀賞受賞
- 全日本PR映画コンクール入賞

お母さんの幸福

全五巻

しあわせ

みんなそろって健康診断

株式会社 桜映画社

東京都中央区八重洲三丁目五番地（横町ビル内）

電話 (27) 七六一一・七六二二番



製作 提供 配給

母と子の 中外 株式会社

桜薬株 教育映画配給

映画配給 株式会社



解説

家庭の中軸であるお母さん—このお母さんが健康であるうちは、家庭内の雑用はみなかぶさつてくる。この映画では、家内のシワ寄せを一手にうけたお母さんが発病して、長期療養をすることになる。家族はみんなびくびくする。まず気をとりなおした長姉が、つとめを休んで一家の采配をふり、長期療養の体制をととのえ、一家そろって闘病生活にはいった。じめじめしがちな題材であるのに、明るくテキパキと話をこび、そのなかに長期療養に対する心えや気のもちようをたくみに織りこんでいる。

家族のシワ寄せの結果として母親の健康がそこなわれるが、多忙と責任とで早期治療の時期を失う、ということにでもありがちなのがらをあげ、母親の健康は家族の協力によって守らねばならぬ、また、母親にも自覚がなければならぬ、ということ語っている。

保健的な立場からも、社会教育的な立場からも、さらに家族みんなでみる劇映画としても利用できるものです。

お母さんの幸福

秩父宮 妃殿下も 激賞

『お母さんの幸福』の試写会には、秩父宮妃殿下も特に御出席になり、「心あたたまるホームドラマで、私たちが講演して廻るよりこの映画を皆さんに見て頂いた方がずっと効果的」と何度もつよく推奨された。そして妃殿下が総裁をしておられる財団法人結核予防会からは、次のような推薦の手紙が桜映画社に寄せられた。



『映画「お母さんの幸福」は、一般の主婦並びに家族に対して、結核の正しい知識の普及に寄与するために作られたものですが、この種映画に見られるような暗さや教育のための強制がなく、すぐれた劇映画として観賞することが出来ます。又、本映画からは、家庭に於ける主婦の重要な位置について改めて認識させられると同時に、周囲の者の協力と愛情によって結核は必ず直るという明るい希望とそのための方法についても学びとることが出来ます。』

本映画が広く一般の方々に見られるよう望むと共に、すぐれた作品として推薦致します。』

ものがたり

平和な家庭だったが、お母さんが突然肺結核になつてお父さんも、お姉さんも、小さな子供たちも、まずガツガツしてしまった。

お医者さんは入院をすすめたが、お母さんは家のことが心配で自宅療養にきめた。

そこで一家の中には大革命がおこった。子供たちは勉強部屋をお母さんの病室としてあけわたし、お姉さんは会社を休んで家事万端から、お母さんの看病をひきうけた。お医者さんから渡された安静度表によって、一家の生活がすっかり編成されてしまった。「自分のことは自分で」するようになって、お父さんもつとめて協力している。

病気をなおすために、お母さんは規則正しい生活をしなければならぬ。お姉さんは、起床から就寝までの時間表をけんめいに励行する。

四つになる坊やと小学校にいつている洋子ちゃんにとって、なによりもつらいことは、お母さんの病室に入れないことである。お父さんでさえ、「お父さん、もうお母さんのおやすみの時間よ」といわれると黙って病室を出なければならぬ。

長い家庭生活のあいだに身についてしまったお母さんの心遣いは、フトすると、「お父さんのワイシャツにアイロンかけたか?」「今日のお弁当のおかずはなににしたの?」と出て来てしまう。お母さん、そんなこと心配しないでもいいのよ」お姉さんは明るく笑っているのだけれど、なにかならにまでほんとうに大変。お父さんも口にくそ出さないけど、本屋へいつて結核の治療法をそれとなく研究する。洋子ちゃんは、図画の時間に、病床にあるお母さんの姿を、早くよくなりますように、と念じながら描いた。

こんなある日、幼い良二は、近所で病人をなおしていた祈禱師を意気ようよくと連れて来た。お母さんの病気をなおしたい一心で。ところが「だめじゃないの、あんな人連れてきて」お姉さんに断然ことわられて泣き出してしまった。

不自由で、心配で、つらいことが多いお母さんの闘病生活のあいだ、みんな仲よく、お母さんが一日も早くなおることを願ってがんばったかいがあつて、お母さんはしだいによくなつていったが、それとともに、お母さんも、家族の者も、昔のお母さんやお父さんや子供たちではなくなつていった。お母さんに甘えきつた家族や、みじめなお母さんではなくなつていった。

お母さんが、再び家族の一員にもどつて、新しく明るい平和な家庭生活が営まれるのも間近いことであらう。

(価格 九五、〇〇〇円)



新しい結核内服治療剤

ヒドロロンサン末錠

新標語

結核は早く見つけて正しい治療



スタッフ

製作 村山英治
脚本 片岡薫
監督 西沢裕
木村莊十二

キャスト

お父さん 坂本武
お母さん 堤真佐子
お姉さん 川口のふ
章子 中村直太郎
洋子 都築みどり
良二 春日井広往
医師 松田達夫
町の医師 鶴丸睦彦
村田青年 小林寛
祈禱師 小峰千代子

家族の愛情で全快へ



家族の愛情で全快へ

(毎日新聞社評)

過労で結核になった母親が、家族の愛情に見守られて回復するというホーム・ドラマ。長い家庭生活で何人もの子供を育て、家事で忙しい毎日を送っている母親にはありがちなことです。医者に入院をすすめられ、安静を命ぜられながらも、夫のワイシャツのことやこどもの弁当のおかずのことが念頭を去らない母親の姿に、この映画を見るお母さん方はしみじみと共感するかも知れません。母親のしあわせは家族みんなの愛情によってささえられることをあたたくえがいています。じめじめした暗さのない、落着いた味わいのすぐれた映画です。

心打たれる母子の愛情

(朝日新聞社評)

：見終つてすがすがしい気分が残るのは、素直な子供たちと病気の母親の愛情がやさしく描かれているからであらう。母親の幸福は、このように家族全員が協力してはじめて生れるのだ。母親が一家にとってどれほど大事な存在か、その仕事がどれほど大変なものかもこの映画はそれとなく語っている。

「うちのお母さんときどき健康診断をうけなければ!」「自家静養の家族をこうしてたすけよう!」見る人にこんなことを考えさせるだけでも、この映画は意義ある作品といえよう。ベニス映画祭でグラン・プリをとつた「お姉さんといっしょ」の姉妹篇だそうだが、このようなホームドラマの登場はよろこばしい。